

13 回生 森山大器さん (佐賀市出身)



デザイン×技術×ビジネス で新しい常識を創る

- 1996年4月 弘学館中学校入学
- 2002年3月 弘学館高等学校卒業
- 2002年4月 東京大学理科一類入学
- 2008年3月 東京大学大学院卒業
- 2008年4月 Boston Consulting Group 入社
- 2014年5月 IIT Institute of Design 卒業
- 2014年8月 Deloitte Japan 入社
- 2018年8月 Deloitte Israel 出向

(2019年8月現在)



東京大学卒業時に最優秀卒業論文賞を受賞

森山大器さんのとある一日

- 07:00 日本との電話会議
(時差の関係で朝が早い)
- 09:30 出勤
- 10:00 イスラエルに関する記事を執筆
- 11:00 イスラエル訪問中の日系企業との打ち合わせ
- 13:00 イスラエルスタートアップとの打ち合わせ
- 15:00 イスラエル政府機関との打ち合わせ
- 16:30 ロンドンとの電話会議
- 18:00 帰宅

危機感と衝突から生まれる革新

スタートアップが数多く生まれ第2のシリコンバレーと呼ばれているイスラエルのテルアビブに駐在し、イスラエルの革新的なテクノロジーと日本企業の間で誰も見たことがない”新しい常識”を創るべく日々奮闘しています。所属している Deloitte Israel には従業員が 1300 名ほどいますが、日本人は自分1人。

日々、現地イスラエルの流儀に困まれて仕事する中で、かえって日本が客観視できるのは海外経験の面白いところ。イスラエルはユダヤ人迫害の歴史や近隣国との緊張感を背景に「いかに不利な条件の中で生き残るか」というマインドセットを持ち、しかも、思ったことはストレートにぶつかり合うことでユニークな切り口を見出していくカルチャーがあります。

多様なメンバーが濃密な時間を過ごす弘学館で、みなさんはどれだけ危機感を感じていますか？考えが近い仲間と集まるだけでなく、考え方が異なる同期とどれだけぶつかっていますか？

良い答えを考えるだけでなく、良い質問をしよう

弘学館にいた時は、先生が即答できない質問をするのが好きでした。

受験は与えられた問題に対して”正しい”答えを出す訓練とも言えますが、不確実性が増し、前提が次々と変化するこれからの時代は、正しい問題を設定するスキルの重要性が高くなってきます。イスラエルの家庭では、お母さんが子供に「学校ではいい質問をしなさい」と言い聞かせるそうです。イスラエルの軍隊では、上司の考えが違えば年齢に関係なくチャレンジする(疑問を呈する)ことが奨励されています。

僕も佐賀県出身ですが、弘学館は田舎にあって外部環境としては刺激が少なく、つまらないと思う方もいるかもしれませんが、ここまで外的なノイズが少ない環境で内面と向き合える時間はとても貴重です。”常識”とは自分の中にある偏見の総称ですが、自分の見方が一面的でないか問い直し、前提をアップデートし続けてみてください。

後輩へのメッセージ

イノベーションの世界では若い人の方が柔軟で新しいモノを生み出しやすいことも多く、僕はむしろ皆さんから学びたいと思っています。ただ、1つ僕が皆さんよりやってきたことがあるとすると、他人がやらないことへのチャレンジでしょうか。ただ闇雲に打席に立てば良いわけではないですが、心を込めてユニークな打席に立ち続けると普通の人が想像できない世界に到達できるかもしれません。